

行田歴史系譜 343

資料がかる 行田の歴史 43

京升の登場、近世社会の幕開け

関東の戦国時代は、小田原城（現、神奈川県小田原市）を拠点として広く勢力を維持していた小田原北条氏が豊臣秀吉の軍勢によって滅ぼされて、終焉を迎えたといわれます。

それから、近世と呼ばれる社会に徐々に移行していきませんが、その指標の一つともいえるのが、物の長さ、重さ、容積などを計る際の基準の統一です。秀吉が行った著名な政策の一つとして太閤検地があります。

これが共通した基準で田畑の等級や面積を把握したことに大きな意味がありました。同時に、米の量を計る際には京升を用いるようになりました。



但京升

慶長2年(1597)預り申米銭之請取数之事
写真左は拡大したもの(個人蔵・行田市郷土博物館寄託)

忍城周辺では、石田三成の軍勢による水攻めを経て、傷ついた城郭や領内の復興が城代の松平家忠により進められました。そうした中、徳川家康の四男である松平忠吉が忍城主となります。領内の支配は家老の小笠原吉次が主に担当し、寺院の境内地の保持を認める寺領寄進状を与えた形跡が残っています。

慶長2年(1597)4月、松平忠吉の家臣とみられる内藤佐平と竹内正九郎が沼尻村肝煎の田島氏へ宛てた年貢米などの受取書(掲載写真)をみると、「年貢分の年貢米は1俵につき京升で6斗8升入り」とただし書きがあります。慶長2年からみて直近の午年は文禄3年(1594)に当たり、少なくともその頃から忍城周辺では京升が導入されていたことがうかがえます。当時、豊臣政権の一翼を担う大名であった徳川家康の勢力圏である松平忠吉の領内においても京升がいち早く導入され、近世の幕開けが訪れていたのです。

なお、忍城水攻め前後の戦国から近世に移り変わる社会の様子については、10月8日開幕の開館35周年記念第35回企画展「天正十八年、関東の戦国から近世」において同時代の貴重な資料の数々を展示し、より詳しく紹介します。ご来館をお待ちしています。

(郷土博物館 澤村怜薫)

はじめまして



令和3年12月生まれのお子さんを募集します

- 10月3日(月)～31日(月)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、11月4日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和3年10月生まれのおともだち



野口 佳純ちゃん(渡柳)
令和3年10月8日生まれ
父・昌紀さん 母・渚紗さん
「笑顔いっぱい、
すくすく大きくなってね♡」



黒沢 海音ちゃん(下忍)
令和3年10月23日生まれ
父・大和さん 母・未恭さん
「毎日、笑顔をありがとう。♡」



栗本 蒼也ちゃん(持田)
令和3年10月2日生まれ
父・佑稀さん 母・仁美さん
「人懐っこいわんぱくな男の子、
笑顔を大切に！素敵なお誕生♡」



荻原 瑛土ちゃん(樋上)
令和3年10月28日生まれ
父・恭介さん 母・くるみさん
「お兄ちゃんと一緒に
仲良く成長してね♡」



田島 碧人ちゃん(渡柳)
令和3年10月29日生まれ
父・和也さん 母・香織さん
「たくさん幸せをありがとう♡
元気に育ってね☆」



小笠原 蓮ちゃん(谷郷)
令和3年10月30日生まれ
父・聖司さん 母・奈緒さん
「毎日かわいい笑顔を
ありがとう♡だいすき♡」

今月の表紙

10月はスポーツ庁の定める「体力づくり強調月間」です。成人の3人に1人は運動不足といわれており、運動不足は体力や筋力の低下、生活習慣病の発症や悪化、心の健康を害するリスクを増大させます。

心身ともに健康に過ごすために、今より10分多く体を動かしてみましょう。

ホームページ <https://www.city.gyoda.lg.jp>



行田市のマイナンバーカード交付率39.8% (9月1日現在)



環境にやさしい
植物油 INK

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています

詳細は総務部ホームページ